「母乳育児奮闘記」

みやぎ母乳育児をすすめる会　監事　堺　武男

第 24 回	異常なまでに進行する少子化について

今回は異常なまでに進行する少子化についてこれまでの資料を整理してみました。飽くまで資料の整理ですので主観的な意見は述べていませんが、今後の育児支援についてのご参考にと思いまとめ、奮闘記の代わりとさせて頂きます。

1．出生数の推移

1949年：270万人（ベビーブームの頂点、堺の生まれた年でもあります）。
ちなみにこの頃の乳児死亡率は200であり、１年間５人に一人は亡くなる時代であった。

1975年：190万人（200万を切る）

1989年：124万人、特殊出生率1.57となり、この後の人口減が危惧された。

2000年：119万人、2019年：86万人、以降年５％の減少続く。

2021年：81万人、2022年：77万人、2023年：72万727人（これは日本人だけの数字で、こういう区別にどういう意味があるか分からないが外国人を入れると75万人）。このままでは2024年は70万人を切ることが予想される。

2．15歳以下の小児人口

2021年：12-14歳 323万人、０-２歳 251万人、年少者が激減していることが分かる。

3．婚姻数の変化

１）2023年：474,771組。2022年より30,213組、６％の減少。

２）50歳時点での未婚率（2020年調査）男性20%、女性18%、これは増加傾向にある。

4．各家庭の子どもの数

１）完結出生児数（結婚している夫婦の子どもの数）は1.9～2.2と大きな変化はない。
婚外子の極めて少ない日本の現状では、子どもの数の殆どは夫婦間のお子さんであり、この結果からは婚姻率の低下が少子化の大きな原因の一つと考えられる。

２）今後の完結出生児数の予測について

①2021年の調査では
結婚したら子どもを持つべきだ：男性55%（2015年より20%の減）女性37%（同30%の減）
子どもを持つことが生活のプランに出来ない人たちは→「第一子に辿りつけない層」と呼ばれる

②2023年、６歳以下のお子さんがいる男女1,100名への調査（安田生命）

ｉ）さらに欲しいと思わない：41.2%（2022年35.4%）

ⅱ）さらに欲しいが厳しいと思う：37.3％

ⅲ）さらに欲しい：21.5％

③欲しいと思わない理由（複数回答）

ⅰ）将来の収入に不安：46.6％

ⅱ）年齢的に不安：43.9％

ⅲ）生活費がかかるから：42.4％

5．現在の家庭の経済状況について

1）30年間昇給の無い賃金：やっと少し上がったが中小企業は厳しい

2）最低時給1,000円という異常さ（今年1,055円にほんのすこし上がったが）

3）非正規雇用者数：2023年 2,124万人：全労働者の37％！（その内女性は70%）

（参考「ルポ低賃金」東海林智著、地平社）

6．子どもの養育費

保育園、幼稚園、学校給食費、高校授業料、制服、その他諸外国では無料のものが日本では各家庭の負担となっている。ワクチンもつい最近までほとんど有料で年間一人15～20万円かかっていた。

1）「こども誰でも通園制度」という制度の内実

2026年度より、６ヶ月～２歳の未就園児が対象とされるが、但し１か月に10時間が上限！その理由は保育士不足とされている。

参考：保育士の現状

1）保育士配置基準：ベビーブームの1948年制定、76年変わっていない。

2）保育士一人の園児数：０歳 ３人、１歳 ６人、２歳 ６人、３歳 20人、４-５歳 30人！

3）保育士の給料：2021年調査で全産業平均より５万円強低い。

7．以上の結果：母親も働くのが当たり前となっている。

1）仙台市の共稼ぎ率の推移：「仙台市　子ども・子育てに関するアンケート」より

2003年：36.3%　2008年：43.3%　2013年：44.1%　2018年：49.6%　2023年：60.5%

と昨年急激に増加している。

それでも「子どもの貧困」は日本での大きな問題となっている。

参考書：2002「下流社会」三浦天、2008「子どもの貧困」阿部綾、2017「貧困の戦後史」和田正義、2018「子どもの貧困」渡辺由美子、2019「本当の貧困の話をしよう」石井光太など。是非お読みください。

８．児童手当の改訂

所得制限の廃止の是非などのすったもんだの議論（？）を経て辿りついた結論は

１）2024年12月から年６回支給の予定

①０～２歳　　：15,000円

②３歳～小学生：10,000円

③中＝高校生　：10,000円

④３子以降は０歳から高校生まで：30,000円

但し第３子は現状では少なく、しかも第１-２子が高校を卒業、または19歳になればきょうだいとしてカウントされないことになる。勿論、児童手当はお子さんのいる家庭に支給されるわけで、「第一子に辿りつけない層」、お子さんのいない方には無関係な話で、それ以前の対策が無ければ解決策にはなりません。

９．世界の現状

１）世界の人口：81億2000万人

一位；インド：14億4,000万人、二位中国；14億2,500万人、三位米国；３億4,000万人

→インドと中国で約30億＝世界の37.5%を占めている

２）一方先進国はいずれも少子化の道を歩んでいる

先進国の特殊出生率は

日本は2023年1.20であったが2022年の各先進国の結果は

米国：1.66、英国：1.57、ドイツ：1.53、フランス：1.68であり、いずれも低値となっている。

著しいのは韓国で0.77（2023）と国家滅亡の危機的状況にある。

以上、少子化に関するこれまでの情報を整理してみました。この傾向は今後改善することはないと思います。大変な時代になります。この少子化が母乳育児にどのような影響を与えるか、与えているかを慎重にしっかり検討する必要があります。それはいずれ機会がある時にまとめます。

ちなみに世界的な気候温暖化（酷暑化）についてUNICEFの調査では（対象は不明ですが）、５人に２人は「こどもは持てない」と答えたそうです。

これからは経済的理由以外に自然的な誘因も考えなければならなくなりそうです。